

令和2年度 専門学校デジタルアーツ東京  
学校関係者評価報告

令和2年7月31日

令和元年度学校自己評価（基準日：令和元年3月31日）をもとに評価実施

 大学 菅原学園

専門学校 デジタルアーツ東京

# 学校関係者評価委員会報告

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ東京学校では、本校の学校関係者評価委員会規定に基づき委員会を実施いたしました。以下に議事進行についてその内容をご報告いたします。

今後は、各委員からの貴重な意見や提案を真摯に受け止め、学校運営の改善および教育の質の向上に努力いたします。

会議名：学校関係者評価委員会

日時：令和2年7月27日（月） 16：15～17：15

会場：専門学校デジタルアーツ東京

出席予定者：学校評価委員会、事務局

## 1. 学校関係者評価委員及び事務局について

### (1) 学校関係者評価委員

- 業界関係者：関根史暁（株式会社サンステラ 技術推進部課長）  
業界関係者：池田聖児（株式会社サンシャインコーポレーション 取締役）  
業界関係者：東海林龍（株式会社レオパードスタイル 代表取締役）  
業界関係者：藤沢理子（株式会社エッジワークス 取締役）  
業界関係者：須藤創（株式会社エスプラス 代表取締役）  
卒業生：脇園香（アニメーター）  
地域住民：平山智邦（地元企業：有限会社ツチキン 取締役）

### (2) 事務局

- 学校教職員：都築敏明 専門学校デジタルアーツ東京 副校長  
学校教職員：五十嵐ゆかり 専門学校デジタルアーツ東京 学生部兼企画広報部 部長  
学校教職員：平井俊之 専門学校デジタルアーツ東京 教務部 課長  
学校教職員：有我正則 専門学校デジタルアーツ東京 事務管理室 事務長

## 2. 委員会次第

- ・代表挨拶及び学校概要紹介
- ・委員及び事務局自己紹介
- ・令和元年度自己点検・自己評価紹介
- ・討議、意見交換
- ・閉会の挨拶

### 3. 討議、意見交換

#### (1) 教育理念・目標

事務局側から令和元年度については企業連携を推進していく等、昨年当委員会で討議した内容を概ね達成できたと自己評価しているが、年度末の3月から新型コロナウイルスによる様々な変化で令和2年度の教育をどのように進めていくのか、学生の教育を受ける環境を整えていくのか課題が山積していると報告した。

委員側からは、地元池袋が推進する「豊島区アート・カルチャー都市」構想の中での取り組みを評価している。しかし、新しい施設が池袋東口エリアに集中しているので、新型コロナウイルスの問題はあるが、学校のある西口エリアの盛り上がり力を発揮してほしいとの意見があった。

#### (2) 学校運営

事務局側から令和元年度の年度末に新型コロナウイルスの影響で卒業式が開式できなかったこと、新年度についても入学式が中止になり授業開始も6月からと1か月半遅れた関係で年間行事予定を再編して実施することを報告した。

委員側から感染予防対策についての質問があり、事務局側より入館時の消毒と検温を実施していること、サーモカメラによる検温システムを導入したこと、さらにパソコン実習教室では各パソコンをパーティションで区切り、講義教室では教卓前にビニールシートを張ることで飛沫が飛散しないよう対策を取っていると説明した。

#### (3) 教育活動

事務局側より、現在は対面による授業を行っているが、今後の新型コロナウイルス感染状況の変化による国や東京都からの休校要請に備え、オンライン授業用の設備導入の準備を進めていることやノベルス・シナリオ学科で行っているオンライン授業配信の例を説明した。

委員側からは、担当する講師によって授業の質にバラつきが出ていると感じるので、お互いの授業内容を見る等の取り組みをして、講師間で授業の質を高め合うと良いと思うとの意見が出た。また、大学では、自宅で講義を録音、編集し、それをオンラインで生徒に配信する授業をしている人もいるが、専門学校では専門的なソフトウェアも多く、オンライン用の機材やソフトを学生が全て買い揃えるのは大変で、更に実際に登校しないと成立しない授業内容も多くあるのではないかと思う。もしオンライン授業を取り入れて行くのであれば、機材などのサポートも必要と思われるとの意見もあった。

#### (4) 学修成果

委員側から新型コロナウイルスの影響で求人が減少し学生にとって厳しい年となると予想され、就職活動には専門性だけでなく人間力もトータルで問われることが例年以上と思われるがどのような対策が考えられるかと質問を受ける。

事務局側からは、本校分野の学生が不足ぎみのビジネス能力を1年次より担任が徹底して指導

していること、その成果としてビジネス能力検定ジョブパス3級の取得を全学生がめざし勉強している、ただし今年は授業開始が1か月半遅れたことで就職指導も遅れており、担任・キャリアサポートセンターがしっかり連携し対応していく旨を説明した。

委員側から就職において一番大切なのはやはりコミュニケーション能力で、これは自分で就職先の会社を見極める力にも関わってくると思う。企業は「頭がすごく良いがやる気が無い人物」と「能力は劣るがやる気がある人物」では、後者を採用したいと思う。デジタルアーツ東京の授業内容は、大学等のビジネス的な内容とは異なりクリエイティブで専門的なものだが、もっとコミュニケーション力を鍛える授業をやったら良いと思うとの意見があった。

#### (5) 学生支援

声優養成所を運営している委員より、例年より授業開始が遅れてしまったり、感染予防のため今まで出来ていた事が出来ない状況になってしまった分、単純に授業の遅れだけでは無く、コミュニケーションを取ったり、人間関係を構築する時間も短くなっている。さらに、授業の前後や空き時間等もなるべく会話をしない様にするなど、コミュニケーションを密に取らない様にしなければならぬ状況になり、信頼関係を結ぶ事が非常に難しいと養成所の状況を報告。専門学校も同様の問題があり、そこをどのようにフォローするかが大切だと思ふとの意見があった。

また、何よりも学生の健康を一番に考えるべき。体の健康面では、コロナ対策をいかに徹底するかによって学生へ与える影響を最小限にできると思う。心の健康面では、3密を避ける影響からコミュニケーションが希薄になり、学校へ行く気力も無くなってしまう。そうなると退学等の問題にも発展して行くので、日頃している対策のさらに一歩手前の段階で生徒のケアをした方が良いと思ふとの意見もあった。

事務局側からは、体調不良で欠席した学生について本人だけでなく保護者とも連絡を取りながらフォローし、新型コロナウイルスへの不安等がある場合は授業の出席を柔軟に対応、またスクールカウンセラーを増員して心のケアも行っていることを報告した。

#### (6) 教育環境

適切であると判断された。

#### (7) 学生の受け入れ募集

事務局より新型コロナウイルス感染防止のため3月から5月までの体験入学を中止せざるえない状況にあったこと、その間の対策として入学希望者に対しオンラインでの個別相談を行い対応したことを説明した。

委員側からは、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業化が進行していくなら、直接学校に来校してもらうことが難しい現場のクリエイターに講演をしてもらったり、直接添削してもらえことを売りにすることはできないかとの意見があり、現在インターンシップで対応している本校の学生・卒業生に対して行ったプロによる実際の添削を例に提案があった。

(8) 財務

ホームページ上で公開しており、適切であると判断された。

(9) 法令等の遵守

適切であると判断された。

4. 配布資料

- ・ 入学案内書
- ・ 自己評価表